

# 施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(1) すべての子どもと家庭への支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○子どもの人権擁護を推進します</p> <p>○すべての子どもと家庭に対する妊娠期からの切れ目のない子育て支援に取り組みます</p> <p>○様々な困難などで配慮が必要な子どもと家庭への支援の充実を図ります</p> <p>○子どもの貧困の連鎖を防止するため、教育、生活、就労などにおいて地域との連携を含め、子どもや家庭への支援に取り組みます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	ファミリーサポートセンター事業	子ども家庭支援センター事業
	母子等福祉総務事業	次世代育成支援行動計画等推進事業
	ひとり親家庭生活学習支援事業	子どもの権利サポート委員会事業
	児童虐待防止施策推進事業	子ども総合相談事業

実施した主な内容	<p>子ども施策に係る新たな計画の策定に向け、子ども、保護者、若者に対しての意識や生活等に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>子ども総合相談、子どもの権利サポート委員会による相談、母子父子自立支援員による相談など、様々な困難を抱える子どもや家庭に対して相談支援を行ったほか、児童虐待の防止に取り組んだ。</p> <p>ひとり親家庭への支援として、法律相談事業をはじめ、自立支援教育訓練給付や高等職業訓練促進給付、ひとり親生活学習支援などの様々な取組を実施した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「宝塚市は子育てがしやすいまちだと思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	50.2 (H30)	目標	-	-	52	-	-	
				実績	-	-	47			
	達成状況とその理由	コロナ禍や物価高騰など、子育てを取り巻く環境の変化もあり、目標を達成することができなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		「子育てに負担を感じることもある」と回答した市民の割合								↓
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	62.9 (H30)	目標	-	-	58.2	-	-	
				実績	-	-	68.4			
	達成状況とその理由	コロナ禍や物価高騰など、子育てを取り巻く環境の変化もあり、目標を達成することができなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		ひとり親家庭生活学習支援事業の利用世帯の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	39.9	目標	40	44.4	44.4	44.4	44.4	44.4
			実績	31.7	31.3	32.2				
達成状況とその理由	前年度の実績は上回り、対象者に対する受講者の率は上がっているが、目標に達することはできなかった。令和5年度から中学3年生の授業回数を週2回としているので、今後の受講率の向上を図る。									
④	指標名								めざす方向性	
	児童虐待管理ケース終了率								↑	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	%	45	目標	50	50	50	50	50	50	
			実績	50	42	48				
達成状況とその理由	対応困難ケースが多く、継続的支援が必要な状況のケースが多くあったため、目標を達成することができなかった。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>外部環境の変化もあったため、成果指標において目標に達することはできなかったが、子どもの権利サポート委員会では、子ども自身の悩みや心配ごとの相談を受け調整活動を行ったほか、子ども総合相談では、どこに相談すればよいかわからない相談を受け止め、切れ目のない支援につなげることができた。また、児童虐待防止に向けて関係機関と密に連携して取り組み、指標が改善するなど、施策の推進に向けた様々な取組を着実に推進していることから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>子どもがひとりの人間として尊重され成長していくには、生まれ育った環境によってその将来が左右されず、子ども自身の権利が守られ、意見を表明する場を確保する必要がある。貧困等の環境による教育の格差を縮めるための取組みや、子どもの意見表明の場、「子どもの権利」の認知が広がるように周知・啓発に取り組む。</p> <p>子どもを取り巻く社会環境が複雑になっている中で、子どもやその家庭が抱える困り感の内容や程度は多様であるため、個別に応じた切れ目のない支援が必要である。そのため、保健・福祉・教育の分野ごとの相談窓口での対応のほか、相談先に迷うような困り感を幅広く受け止める子ども総合相談を実施し、学校等の関係機関と連携しながら漏れのない相談支援に取り組む。また、児童虐待管理ケース数が増加傾向にあり、多様化する事案に適切に対応するためには、経験を有する福祉専門職員の配置を基本とするなど、さらなる体制強化を行い、引き続き関係機関と連携しながら取り組む。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(2) 子育てと仕事の両立支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○待機児童解消のための施策を進めるとともに、一時預かり事業や病児保育事業などの多様な保育施策に取り組みます</p> <p>○放課後の健全育成の場の確保に向け、放課後児童対策に取り組みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	地域児童育成会事業	市立保育所保育実施事業
	病児保育事業	指定保育所助成金
	民間放課後児童クラブ運営支援事業	私立保育所助成金
	私立保育所誘致整備事業	

実施した主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育施設の定員拡充に向けた認可保育所整備法人の選定</li> <li>・ 放課後児童健全育成事業の待機児童対策として仁川小学校区に民間放課後児童クラブ開設</li> <li>・ 病児保育事業を2施設で実施（継続）</li> <li>・ 一時預かり事業を16施設で実施（継続）</li> <li>・ 6施設を市指定保育所に指定し多様な保育ニーズの受け皿として確保（継続）</li> </ul>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した就学前児童保護者の割合								↓
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	14.9 (H30)	目標	-	-	0	-	-	
				実績	-	-	11.3			
	達成状況とその理由	指標は目標を達成していないものの、5年前に比べて数値は低くなっており目指す方向に向かっている。								
	②	指標名								めざす方向性
		保育施設の待機児童数								↓
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	0	0	0	0	0	
				実績	58	0	0			
	達成状況とその理由	保育施設利用の申込率は増加しているものの、就学前児童数が減少していることもあり、これまで拡充してきた認可保育所の定員枠を維持したことで待機児童は0人となった。								
	③	指標名								めざす方向性
		放課後児童健全育成事業の低学年の待機児童数								↓
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	51	目標	0	0	0	0	0	
			実績	27	96	49				
達成状況とその理由	3校区において民間放課後児童クラブにより定員拡充したものの、校区によっては想定を上回る申し込みがあったため、目標を達成できなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した低学年児童保護者の割合								↓	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	%	7.4 (H30)	目標	-	-	0	-	-		
			実績	-	-	8.5				
達成状況とその理由	ニーズが高まっている放課後児童クラブの入所申し込みに対して、校区によって定員枠が十分確保できていない状況もあり割合が増加している。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標②は就学前児童数の動向とこれまでの定員拡充策の継続により目標を達成した。また、成果指標①③はともに目標値には達していないもののめざす方向に向かっている。その要因として①は認可保育所の入所がしやすくなってきたこと、③は3校区で定員拡充を行ったことが考えられる。成果指標④は入所希望者が急増していることもあり目標に達していない。それぞれ待機児童対策を講じたうえで概ねめざす方向に向かっていることからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>保育施設は認可保育所定員枠を拡充してきたこともあり、待機児童は0人となった。就学前児童数は減少しているものの保育ニーズは依然として高く、入所希望と施設のマッチングを丁寧に行い安心して子育てができる環境を整えていく必要がある。</p> <p>放課後児童クラブについては、23小学校区ごとに定員を設けており、校区によって事情が異なるニーズすべてに対応しきれていない状況にある。保護者ニーズを詳しく分析し効果的な待機児童対策を検討していく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成		
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>		
施策	(3) 安全・安心の子育て環境づくり		
総合戦略での位置付け	—		—

施策の方向性	<p>○子育てしやすい生活環境づくりに取り組みます</p> <p>○子どもの安全・安心の確保に取り組みます</p>		
--------	---	--	--

施策を構成する主な事務事業	青少年補導事業	青少年センター運営事業
	青少年相談事業	

実施した主要内容	<p>青少年の健全育成・非行防止を目指し、関係機関と連携し、各種活動を実施するとともに、青少年に悪影響を及ぼす有害環境の浄化に努める活動を行った。</p> <p>また、子どもの心を理解する講座の開催や青少年や保護者の悩みについての相談に応じ助言を行い、関係機関との連携による継続的な指導も行った。</p>
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「子どもに対する犯罪や事故が少ない」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	26.0 (H30)	目標	-	-	29.9	-	-	-
				実績	-	-	26.6			
	達成状況とその理由	目標を上回ることはできなかったが、前回値は上回った。								
	②	指標名								めざす方向性
		関係機関と行った補導回数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		回	-	目標	10	10	10	10	10	10
				実績	12	24	17			
	達成状況とその理由	目標を達成することができた。								
	③	指標名								めざす方向性
		補導委員街頭補導活動実施回数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		回	-	目標	1104	1104	1104	1104	1104	1104
			実績	1022	838	1804				
達成状況とその理由	各班積極的に補導活動を行うことができた。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>広域化する青少年活動に対して、警察や他市青少年センター、関係機関とも情報を共有し、連携して活動できており、補導委員による積極的な補導活動もあり、改善を図っていることからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>本市の子ども施策は、保育など子育て支援サービスを充実するだけでなく、地域で暮らす子ども、その子どもを育む家庭を、教育、子育て支援、コミュニティ、保護者の就業・雇用、生活環境、若者の自立支援などの面から、総合的に応援する地域づくりを進めようとするものである。そのために、次世代育成支援行動計画を策定し、5か年の計画に掲げた取組を推進している。コロナ禍による生活様式の変化もあり、地域の人間関係が希薄となっているほか、インターネットからもたらされる有害環境の影響など、子どもを取り巻く環境も変化している。</p> <p>次世代育成支援行動計画の基本目標にある、安全・安心の環境づくりに関する取組を継続する。また、地域とともにより一層の防犯活動を推進するため、青少年センターでの相談事業や補導事業などを通じ、子どもを犯罪被害から守るための活動、啓発事業、地域での見守りを継続して実施する。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(4) 家庭や地域の子育て力の向上と子どもの社会参加の促進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○家庭や地域の子育て力・教育力の維持向上を図ります</p> <p>○子どもの居場所の更なる充実を図ります</p> <p>○子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりに取り組みます</p> <p>○青少年の孤立を防ぎ、自立と就労を支援します</p>	
施策を構成する主な事務事業	子ども議会事業	青少年育成事業
	家庭教育推進事業	児童館運営事業
実施した主要内容	<p>各地域児童館・子ども館を子どもの居場所として健全育成に努めるとともに、地域における子育て支援拠点と位置づけ、児童館運営事業を実施した。また、児童館のない小学校区には児童厚生員が出向き、出前児童館を開設した。</p> <p>子どもの意見表明に関しては、第2回宝塚市子ども議会を開催し、市内の小・中・高等学校に所属する15名が提案や質問などを発表する機会を設けた。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「地域で子育てを温かく見守る雰囲気がある」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	31.0 (H30)	目標	-	-	32.7	-	-	-
			実績	-	-	29.2				
	達成状況とその理由	コロナ禍を経て調査を実施したこともあると考えられるが、前回調査の数値を下回り、目標を達成することはできなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		中学2年生アンケートで「宝塚市が好き」と回答した人の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	87.4 (H30)	目標	-	-	89.7	-	-	-
			実績	-	-	88.2				
	達成状況とその理由	コロナ禍で子どもが参加する事業が一時的に減少したこともあり、前回調査の数値(87.4%)は上回ったが、目標を達成することはできなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		18歳未満の児童人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		回	1.92	目標	1.92	2.33	2.6	2.94	2.94	2.94
		実績	2.3	2.54	2.87					
達成状況とその理由	コロナ禍の影響が徐々に薄れており、利用人数がコロナ禍前に戻りつつある。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりの取組として子ども議会を実施したことに加え、家庭や地域の子育て力・教育力の向上に向けた子育て支援事業や子どもの居場所として児童館を安定して開設できたことから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>本市の子ども施策は、保育など子育て支援サービスを充実するだけでなく、地域で暮らす子ども、その子どもを育む家庭を、教育、子育て支援、コミュニティ、保護者の就業・雇用、生活環境、若者の自立支援などの面から、総合的に応援する地域づくりを進めようとするものである。そのために、次世代育成支援行動計画を策定し、5か年の計画に掲げた取組を推進している。家庭や地域の間関係が希薄化する中、家庭や地域の子育て力や教育力の向上が求められている。また、子どもの居場所の充実や、子どもの社会参加の機会や場の提供が必要となっている。</p> <p>今後も、次世代育成支援行動計画の基本目標にある、家庭や地域の子育て力・教育力の向上や子どもの社会参加の促進に関する取組を継続して実施するとともに、子どもの権利を尊重し、子どもの最善の利益を考慮しながら、子どもの意見表明の機会の確保、成長過程別親育ち講座の充実、児童館を主体とした地域の子育て支援などの事業も工夫を凝らしながら継続して実施する。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。	
施策	(1) 子どもの「生きる力」の育成	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○子ども一人ひとりが大切にされ、共に育つ教育を進めます ○学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図ります ○心身ともに健やかな子どもを育てます ○命の大切さや多様性について理解し、思いやりの心を持つ子どもを育てます ○時代に対応できる子どもを育てます ○ことばを大切にし、感性豊かな子どもを育てます	
施策を構成する主な事務事業	学力向上推進事業	人権教育推進事業
	学校保健事業	学力調査事業
	特別支援教育推進事業	学力向上推進事業
	部活動推進事業	教育相談事業
	子ども支援事業	
実施した主な内容	子ども・保護者対象の面談、特別支援学級の環境整備、中体連市内大会での看護師派遣、人権講座の実施、サイエンスサポーターや心理サポーターの派遣など	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		中学2年生における新体力テストの結果（全国平均を上回る種目数：男女計16種目）								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		種目	4(R1)	目標	8	8	8	8	8	
				実績	4	3	2			
	達成状況とその理由	平成30年度に体力向上プログラムを策定し、全小中学校において取り組むこととしていたが、新型コロナウイルスの流行により体育の授業が制限される期間があり、成果につながっていない。								
	②	指標名								めざす方向性
		新規不登校児童生徒出現率								↓
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	1.21	1.56	1.24			
				実績	1.56	1.24	1.20			
	達成状況とその理由	令和3年度はコロナによる登校制限等の影響を受け新規不登校出現率が上がったが、令和4、5年度は不登校未然防止対策として別室指導員の研修に力を入れたことにより新規不登校出現率は下がった。								
	③	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査で学習活動におけるICT機器活用に関する質問に対して肯定的な意見を回答している児童の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	95.5	94.4	95.1	国平均以上	国平均以上	
実績				94.4	90.4	94.2				
達成状況とその理由	昨年度より全国平均に近づいている。各校でのICTの活用が少しずつだが進んでいる。今後、さらなる活用の推進を行う。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>新体力テストの結果は、新型コロナウイルスによる影響もあり、まだまだ芳しくはないが、新規不登校児童生徒出現率は、2年連続で目標を達成し、取組の効果が表れてきている。また、ICT活用に関しても、全国平均には届かないが、全国平均に近い値となっており、児童生徒のICT活用の有用性が浸透してきている。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>生きる力を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、家庭での経験を学校生活に生かすことが大切である。そのため、学校や友達のこと、地域や社会の出来事などを家庭で伝えるためのコミュニケーション能力、ルールや規則を守る規律性、最後までやり抜く忍耐力、地域や社会に貢献しようとする姿勢は数値で図ることができない能力で、学校だけでなく、家庭や地域と連携して育んでいく必要がある。指標①については、子どもたちの日常生活における運動習慣と基本的な生活習慣の改善を促進することが必要である。指標②については、不登校児童生徒の受け入れ先を確保するとともに、適切な支援を提供することが大切である。指標③については、ICT機器の効果的な活用を学校現場に十分に広めることができていなかった。今後、学校現場の教員だけでなく、児童生徒自身が授業中に活用できるような働きかけを行っていく必要がある。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。	
施策	(2) 学校園、教職員の教育力の向上	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめや体罰、ハラスメントを根絶します</li> <li>○学校園の組織の充実を図ります</li> <li>○学校教育を担う人材の育成に努めます</li> <li>○安全・安心な学校園の整備を進めます</li> <li>○非常時を含め時代に応じた教育環境の整備に努めます</li> </ul>	
施策を構成する主な事務事業	幼稚園運営事業	保幼小中連携教育推進事業
	研究・研修事業	教職員総務事業
	生徒指導支援事業	小学校施設整備事業
	中学校施設整備事業	特別支援学校施設整備事業
	幼稚園施設整備事業	中山台地区教育環境適正化事業
実施した主要内容	空調設備の整備、保幼小中特別支援学校合同研修会及び管理職や職員を対象にした研修会の実施、生徒指導連絡協議会の開催など	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答した生徒の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	72.4 (R1)	目標	81.4	82.6	80.3	国平均以上	国平均以上	
				実績	78.9	78.8	77.3			
	達成状況とその理由	以前の結果と大きな差はないが、今後も全国平均を上回るように、生徒自身の自尊感情を高める取り組みが必要である。								
	②	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査で「先生はわたしの良いところを認めてくれていると思う」と回答した生徒の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	国平均以上	39.9	40.0	国平均以上	国平均以上	
				実績	-	34.6	29.2			
	達成状況とその理由	全国平均から大きくポイントが開いている。今後、生徒の自尊感情を高める取り組みが必要である。								
③	指標名								めざす方向性	
	学校施設長寿命化計画に基づく事業実施率								↑	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	%	0	目標	17.5	32.9	49	62.9	80.4		
			実績	14.7	26.6	42.0				
達成状況とその理由	当初実施を計画していたが、他工事との同時施工の都合や国補助金・市予算の採択状況から、工事実施時期を延期したものがあため、目標値未達成となった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>C</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>令和5年度の指標としては、どの項目も目標を超えていない。特に指標②については、全国平均が上がっているにもかかわらず、本市では実績が5ポイント以上下がっている。生徒の自尊感情を高めるためにも更なる取り組みが必要である。指標①と指標③については、目標に達していないものの横ばい状態である。今後も目標に届くよう努力をしていく必要がある。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>子どもがいきいきと育つために、良い学びを実現することが重要である。そのために目指すべき教育の姿、学校の姿、子どもたちの姿、教職員の姿を揚げ、関係者が共通の目標に向けて日々取り組むことが必要であり、そのために目標に掲げた姿の実現に向けた教職員の資質、能力の向上に資する研修を積み重ね、学校園における教育環境の整備を計画的、継続的に実施することが必要である。</p> <p>指標①、②は、本市の学校で起きた重大事態を受けて設定したものである。子どもたちに対しては「いじめは絶対にしてはいけない」と教えたとしても、成果に即効性はなく、今後も定期的に教えていくことが必要である。これまで実施してきた研修により教職員も子どもたちのよさを認め、伝えるようになってきてはいるものの、一方で指導する場面が多い現状もあり、全体の印象として子どもたちが、よさを認められるよりも指導されると感じる割合が高くなる傾向がある。今後も、宝塚市いじめ問題再発防止に関する基本方針、宝塚市いじめ問題再発防止に関する行動計画に基づき取組を強化していく。指標③については、今後も宝塚市学校施設庁寿命化計画に基づき事業を進めていく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切にしている心が育まれている。	
施策	(3) 市民全体による子どもの支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○家庭・地域と連携し、子どもの発達を支援します	
--------	-------------------------	--

施策を構成する主な事務事業	トライやる・ウィーク推進事業	小学校体験活動事業
	地域学校連携協働推進事業	

実施した主要内容	中学校2年生のトライやる・ウィークの実施、小学校5年生の自然学校や3年生の自然体験学習の実施、TAKARAっ子いきいきスクール推進事業でみんなの先生の招聘など	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		学校支援ボランティアの活動回数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		回	6882	目標	8000	前回値以上	前回値以上	前回値以上	前回値以上	
				実績	7606	8079	8521			
	達成状況とその理由	新型コロナウイルスが5類になったこともあり、学校における様々な支援が戻ってきている。								
	②	指標名								めざす方向性
		「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	現状値以上	前回値以上	前回値以上	前回値以上	37.5	
				実績	33.3	-	30.1			
	達成状況とその理由	新型コロナウイルスの影響もあり、地域でのつながりが希薄になったことに加え、教育委員会として各学校に対して、地域との連携を推進するよう働きかけが十分できていなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①については、新型コロナウイルスが5類になり、校内への支援が行いやすい環境に戻ったことや各学校がコミュニティ・スクールを取り入れ、学校運営協議会等の活動により人材の確保を行ったことで、ボランティアの活動回数が増えた。また、指標②については、前回調査より若干であるが下がっている。新型コロナウイルスで3密を避けるといったルールの影響もあり、人間関係が今まで以上に希薄になってきていることが原因であると考えられる。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>令和4年度より市内全小・中・特別支援学校において、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクールを設置した。一方で、各学校では、地域ぐるみの活動を実現するために、「協働」に向けた取組がまだまだ進んでおらず、課題となっている。今後、学校と地域、保護者の連携を図りながら、地域人材の発掘を進め、学校、保護者や地域住民が同じビジョンを共有し、子どもたちの発達の支援を行うことが必要である。また、今後は、学校運営協議会での活動を通して、地域の人間関係の再構築を行っていくことも必要である。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-3 社会教育	
めざすまちの姿	<p>○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりに生かされている。</p> <p>○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。</p>	
施策	(1) 生涯を通じて学ぶことのできる環境の充実	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○学びをまちづくりに生かします</p> <p>○魅力ある図書館づくりを進めます</p> <p>○ふるさと宝塚の文化遺産を守り、活用します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	桜が丘資料室維持管理事業	中央図書館管理運営事業
	西図書館管理運営事業	歴史民俗資料館管理運営事業
	公民館管理運営事業	文化財保護事業
	学校支援地域本部事業	宝塚自然の家管理運営事業
	社会教育推進事業	市史編集事業

実施した主な内容	<p>○社会教育推進では、地域での社会教育活動の支援や振興を図った。○公民館では、市民生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行った。○宝塚自然の家では、豊かな自然環境の中で野外活動などを通じて市民の心身の健全な育成を図った。○文化財保護ほか管理、運営事業を通じて市内の文化財の保護継承及び活用を図った。○市立図書館、市史資料室では、幅広く資料を収集、整理、保存し、多種多様な市民の要求に応え生涯学習を支援した。○学校支援では、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援する体制づくりを整備した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		公民館登録団体・グループ数（3館合計）								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		グループ	519	目標	550	580	610	640	670	700
				実績	516	623	714			
	達成状況とその理由	目標値を上回る成果となった。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、対面交流の機会として団体活動が活発化したと考察する。								
	②	指標名								めざす方向性
		市立中央図書館、西図書館の来館者数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	220000	610000	670000	680000	690000	695000
				実績	111432	530010	564169			
	達成状況とその理由	目標値には達しなかったが、前年度よりも多くの来館者数が増加し、利用拡大を図ることができた。図書館行事が増加したことも要因と考察する。								
	③	指標名								めざす方向性
		宝塚自然の家利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	-	10000	10000	10000	11000	11000
実績				-	11267	11757				
達成状況とその理由	利用者数が増加した。普段の生活では体験できない里山自然体験ができる場所として定着してきたものと考察している。									
④	指標名								めざす方向性	
	公民館利用者数（3館合計）								↑	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	人	231024	目標	260000	280000	360000	360000	360000	360000	
			実績	227523	307743	325529				
達成状況とその理由	目標は達成しなかったが、利用者は増加傾向である。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、対面交流の場として公民館が利用されていると考察する。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、感染拡大の危機感が収束傾向にある。各社会教育施設の利用者は前年度から概ね増加傾向である。これは、行動制限の緩和から対面交流や安心して外出できる環境が定着しつつあることや、社会教育施設が創意工夫して行事を積極展開したことも増加要因であると考えられる。しかし、目標値に達していない成果指標も一部あることから、B評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>○社会教育推進では、地域の教育力の「見える化」と継承発展の仕組みづくりが求められる。社会教育委員の知見や意見を尊重し社会教育活動の支援や振興を図っていく。○公民館は、市民生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業の企画力と実行力の蓄積と市民ニーズの把握が必要であり、きめ細かいアンケートや利用者の知的好奇心にかなうコンテンツの開発など指定管理者の教育力の向上を支援する。○宝塚自然の家は安全な自然体験や野外活動などを進めるうえで懸念される老朽化した施設が敷地内にあり、早急な撤去が必要となっている。○文化財保護ほか管理、運営事業を通じて先達が遺した貴重な財産の保全と活用両面での情報発信の工夫が必要である。○図書館、市史資料室では、市民の学習意欲に丁寧に応えられるよう資料の収集、整理、相談に応じ、市民持続的な学習意欲を喚起する行事、博物機能を培う。○学校支援では、地域の教育力を活性化するため奉仕意識の向上を目指し、実地的な活動を促しつつ研修交流活動を進めていく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		

# 施策評価表

施策分野	4-3 社会教育	
めざすまちの姿	<p>○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりにも生かされている。</p> <p>○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。</p>	
施策	(2) スポーツに親しむ環境づくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	○基本目標 2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり

施策の方向性	○市民のスポーツライフを支援します	
施策を構成する主な事務事業	ハーフマラソン実施事業	スポーツ施設管理運営事業
	学校体育施設開放事業	社会体育振興事業
実施した主要内容	<p>○スポーツ施設の管理運営では、市民のスポーツ、レクリエーションの場の提供、スポーツに関する市民団体及び指導者の育成、市民スポーツ大会及び教室などを実施。○社会体育振興では、スポーツ推進審議会やスポーツ推進員などの活動を通じて、市民スポーツの振興のための事業を行った。○学校体育施設開放では、市内公立小中学校で学校教育に支障のない範囲で市民のスポーツ、レクリエーション活動の場として開放した。○ハーフマラソン実施においては、市民の協働と参画により全国から集う人々との交流を深めた。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市立スポーツ施設利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	795482	目標	1000000	950000	1000000	1300000	1300000	1300000
	達成状況とその理由	市立スポーツ施設の一部改修工事を実施し、スポーツ施設の利用休止を行った影響により利用者数が減少した。								
	②	指標名								めざす方向性
		スポーツ関連イベント参加者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	400	400	400	400	400	400
	達成状況とその理由	目標参加者数には及ばなかったが、前年度を上回った。新型コロナウイルス感染症が5類にしたことで、スポーツマインドが改めて喚起されていると考察する。								
	③	指標名								めざす方向性
		学校開放のべ利用者数								↑
単位		現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
人		-	目標	200000	200000	200000	300000	300000	300000	
達成状況とその理由	目標回数を大きく上回っている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、スポーツの活発化による学校利用傾向が強まっていると考える。									
④	指標名								めざす方向性	
	宝塚ハーフマラソン大会申込者数								↑	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	人	-	目標	-	-	4700	4700	4700	4700	
達成状況とその理由	ハーフの10マイルへの変更等により目標定員に及ばず、コロナ禍後の長距離走意欲の減退が一因と考える。3 kmは目標定員に達し、家族等と気軽に楽しみながら走る機会につながった。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>新型コロナ感染症の5類移行を受けて、スポーツ団体活動が全体的に活発化している。スポーツ活動は人的交流の安全、安心感があってこそ心から楽しみ継続されるものであり、スポーツ施設の利用、指導面においても不安感が払拭された状況とはいいがたい。市立スポーツ施設利用者は施設修繕で稼働日数が減少した事による。学校開放事業は目標を大きく上回った。ハーフマラソン事業では、目標値を下回った。概ね成果は上がっているがスポーツライフの支援という点では、依然伸長の余地があるとの認識から、現時点では「B」評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>○スポーツ施設の管理運営では、施設の老朽化対応とグラウンドの改修、整備などが課題となっている。予算の範囲内で順次保全を進め、市民のスポーツ、レクリエーションの場の提供、スポーツに関する市民団体及び指導者の育成、市民スポーツ大会及び教室などを実施していく。○社会体育振興では、スポーツ推進審議会においてスポーツ界の知見や本市スポーツ計画などの進行管理やスポーツ推進員などの活動を通じた、市民ニーズに応えるとともに、ニュースポーツの啓発活動などを行っていく。○学校体育施設開放では、住み慣れた地域でスポーツが楽しめる環境づくりにむけて、学校教育に支障のない範囲での利用調整などが必要である。○隣接市、県河川整備などとの関係機関の状況によりハーフマラソンができる環境は年々変化することから、柔軟な企画立案実施が必要である。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<p>令和6年度外部評価対象外</p>		